



本市では、令和6年度から令和8年度までの3年間、上田小学校区（上田小学校・上田こども園・あゆみ保育園・へいわだい認定こども園）を架け橋プログラムのモデル校区とし、保幼こ小の架け橋期の教育の充実をめざしています。この通信では、モデル校区の取組を紹介していきます。

子供の姿を起点に話し合う

4月16日 スタカリ期訪問及び情報交換会

上田小学校区では、子供たちが入学して2日目に校区の就学前施設職員が授業や子供たちの様子を参観し、午後から情報交換会をしました。意見交換会では、授業参観から見てきた子供の姿を中心に話し合いを行いました。就学前施設職員からは、率直な質問等もあり、それに対して1学年の先生方が授業で意図や工夫していること等を伝える姿が見られました。また、琉球大学 教育学部 准教授の塚原健太氏からも授業づくりやスタートカリキュラムの考え方等についてのコメントもあり、とても有意義な時間となりました。



子供の姿を共有する

塚原先生からのコメント

学習する子供の視点に立つ接続のために

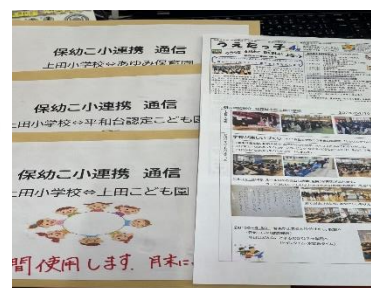
子供たちの育ちや学び（資質・能力）をつなぐためには、子供の姿をもとにした対話を通して、保幼こ小の先生方がともにスタートカリキュラムをつくっていくことが大切です。



園での取組・工夫も伝える

お互いで気軽にできることから始める ～小学校がリーダーシップを発揮～

校長先生の発案で、保幼こ小連携通信のやりとりが始まっています。定期的に子供の姿を共有することで、育ちや学びについて理解が深まる取組となっていると思います。校長先生からよい刺激を受け、就学前施設からも保育ドキュメンテーションを送付しているそうです。また、保護者対象の授業参観へ案内の声かけもあり、就学前施設職員が気軽に小学校へ足を運べるような関係性の構築が見られます。



子供の活動を可視化する



豊見城市ホームページに掲載していきます。

豊見城市幼児教育センター



5月15日授業参観